

### 3 事業概要

環境科学センターは、「良好な環境の確保に必要な試験研究・調査・指導等並びに環境保全の啓発及び普及を行う」(神奈川県行政規則)ため平成3年4月、現在地に設置された試験研究機関です。

主な役割と基本方向を、「環境科学センター第 期中期構想」(平成14年3月策定)の中で、「通常時及び緊急時の行政検査・調査並びに環境監視の実施」、「環境施策への提言につなげる試験研究の実施」、「総合的な環境情報の発信」及び「環境保全のための人材育成」の4項目に分類している。

中期構想を具体化するために策定した「環境科学センター中期計画」では、平成19年度までに取り組む重点課題を決め、研究関連分野については 化学物質のリスク低減、資源循環型社会の実現、自動車環境対策を、行政施策関連分野については 環境汚染への緊急対応、環境総合情報センター機能の確立、実践的な環境学習の推進に取り組んでいる。

主な業務は、環境保全・公害防止・廃棄物処理等に関する試験研究・調査、環境保全及び公害防止に関する技術指導及び知識の普及啓発、公害発生源及び大気・水圏環境に対する監視・測定、総合的な環境情報の提供、環境学習の推進などで、管理課、企画部、環境保全部、環境技術部、情報交流部の1課4部体制で事業を推進している。

#### 3.1 企画部

企画部には、企画調整担当、研究プロジェクト担当を置き、センター各部の試験研究業務の総合的企画調整、業務成果の普及・啓発、研修業務及び他機関との連絡調整等と 所内プロジェクト研究の企画・進行管理をそれぞれ行っている。

平成17年度に企画調整担当が行った主な試験研究業務の推進と運営については、3.1.1に示すとおり外部の委員で構成する研究推進委員会を開催し、重点的な研究課題について評価を実施し、結果を公表した。試験研究成果の普及啓発については、3.1.2に示すとおり県民及び企業等を対象にした業績発表会の開催に加え、センターニュースやセンター業務報告等を発行した。また、3.1.3に示すとおり当センター職員及び県、自治体環境関係担当職員を対象とした人材育成に係る研修業務を実施し、3.1.4に示すとおり技術相談及び講師派遣を行うと共に、3.1.5に示すとおり広報活動を実施した。さらに、3.1.6に示すとおり審議会、委員会等への職員派遣を行った。

研究プロジェクト担当は、3.1.7に示すとおり研究業務を実施した。

##### 3.1.1 試験研究業務の推進と運営

試験研究業務の推進と運営に係る事業については、次のとおり実施した。

事業	概要
1 研究推進委員会 (外部評価) H18/1/25	横浜国立大学村林名誉教授を委員長とする学識経験者6名で構成。平成3年度設置。当センターが実施する試験研究を効果的に推進するため、委員による客観的かつ公正な外部評価を実施している。平成17年度は、特定研究1課題、重点経常研究2課題について、実施状況の評価を実施し、適正な業務の遂行を図った。
2 研究運営委員会 10回開催	企画部長を委員長とする職員6名で構成。平成10年度設置。次年度研究方針、研究課題等研究運営全般および県環境基本計画改定への対応について協議するとともに、若手研究員による研究部会を発足させ、研究計画改定に向け、今後の調査研究の方向性について検討した。
3 研究計画等説明会 研究計画:H17/11/24, 25 研究結果:H17/5/8,9	環境科学センター研究業務実施要綱に基づき、当センターで行う予定の18年度研究計画及び16年度研究結果についてそれぞれ説明会を開催し、重点課題等について評価を行い、適正な研究業務の遂行を図った。
4 研究機能高度化への 対応(科学技術振興課)	重点基礎研究事業等への応募の調整等を行い、当センターからは17年度創出型重点基礎研究1課題が採択されたほか、政策課題研究1課題が実施された。

### 3.1.2 試験研究・調査成果の普及、啓発

試験研究・調査の普及、啓発に係る事業を次のとおり実施した。

事業	概要
<p>1 第14回環境科学センター業績発表会 開催日：H17/10/26 場 所：ひらつかスカイプラザ 参加者：108人</p>	<p>当センターで実施している研究成果等業績の県民へ普及及び企業での有効活用をはかることを目的に発表会を開催した。 発表者と発表テーマ及び特別講演は、5.1.1のとおり。</p>
<p>2 第29回県市環境・公害研究合同発表会 開催日：H17/6/2 場 所：横浜市教育文化センター 参加者：221人</p>	<p>当センター及び横浜市環境科学研究所、川崎市公害研究所の3機関で「神奈川県市環境・公害研究機関協議会」を設置し、情報交換を行っているが、その一環として合同研究発表会を開催している。 発表者及び発表テーマは、5.1.1のとおり。</p>
<p>3 環境科学センター業務報告の発行</p>	<p>環境科学センター業務報告として、次のとおり年報と研究報告を合本して発行し、全国の関係機関等に配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境科学センター年報第37号 平成16年度の事業概要等を取りまとめた。</li> <li>・環境科学センター研究報告第28号 内容は、5.1.2のとおり。</li> </ul>
<p>4 環境科学センターニュースの発行</p>	<p>環境科学センターニュースを4回発行し、県民及び県内外の関連機関等に配布した。 通巻13号(5月)、通巻14号(9月)、通巻15号(12月)、通巻16号(3月)</p>
<p>5 環境科学センターホームページによる情報の提供</p>	<p>上記刊行物に加え、当センターの調査研究課題とその概要、主な研究成果とその活用例、記者発表資料と新聞等への掲載実績等をホームページで公開している。</p> <p>環境科学センター  <a href="http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/center/">URL</a> http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/center/</p>

### 3.1.3 人材育成の推進

人材育成の推進に係る事業を次のとおり実施した。

事業	概要
1 研修派遣 環境研修センター及び各種学会等の研修	環境問題全般に関する専門的知識と技術を取得するために環境省環境調査研修所や各種学会等が主催する研修等に職員を派遣した。 環境省・環境調査研修所主催研修 ・最新分析技術研修(ダイオキシン分析)(3日間:加藤陽一) ・廃棄物分析研修(10日間:渡邊久典) 学会及びその他の研修 ・学会等セミナー 8件 8人 ほか学会の聴講やシンポジウムに参加
2 大気水質担当職員研修の実施	県及び市町村の大気水質行政に携わる職員を対象に研修を実施した。 環境保全関係法令研修 H17/5/16,17,18の3日間 受講者 延べ91人 技術研修 H17/10/12,19の2日間 受講者 延べ21人
3 廃棄物担当職員研修の実施	県及び市町村の廃棄物行政に携わる職員を対象に研修を実施した。 廃棄物関係法令研修 H17/5/19,23の2日間 受講者 延べ97人 技術研修 H17/10/13,28の2日間 受講者 延べ44人
4 勤務発明に係る特許、実用新案の出願	「神奈川県職員の勤務発明等に関する規則」に基づき、環境科学センター勤務発明検討委員会議設置要綱(平成11年6月1日施行)を定めている。 平成17年度末における当センター職員の勤務発明による特許等の保有状況は6.1のとおり。

### 3.1.4 技術相談及び講師派遣

当センターの対外的な窓口として、来所または電話による技術相談や講師派遣の受付や対応の調整を行った。

事業	概要
1 環境保全に関する技術相談	県民、自治体の環境行政担当職員等及び事業所の環境・公害部門担当者等から117件の相談を受け付けた。主な内容は次のとおり。 ・汚水処理、畜舎の臭気対策、事業所振動測定、アスベスト分析方法等
2 講師派遣	当センター以外の団体が主催する環境保全に関する講習会、研修会等の講師として職員を派遣した。 派遣状況は、5.2のとおり。

### 3.1.5 広報（記者発表・施設公開・イベント）

当センターの対外的な窓口として、来所または電話による技術相談の受付や対応の調整を行った。さらに広報の一環として研究成果や行事等について記者発表や施設公開を行った。

事業	概要
1 記者発表・情報提供	<p>平成17年度は、当センターからは、10件の記者発表を行った。その内訳は、研究成果1件、行事案内9件（講座等4件、発表会・報告会3件、施設公開等2件）である。その他共同調査等を実施している団体から2件の記者発表があった。新聞及びテレビ等に掲載された主な内容は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県・市環境公害研究合同発表会(5/19 TVKテレビ、6/3 神奈川新聞)</li> <li>・ 県内河川の多くの地点で水質改善～底生動物調査から判明～ (5/27 神奈川新聞、5/30 FMヨコハマ、6/8 朝日新聞)</li> <li>・ 子ども環境体験教室(9月中 環境G00「エコジローのGOGO環境新聞」、8/24 FM湘南ナバサ、9/13 NHK総合テレビ「いっと6県」)</li> <li>・ かながわサイエンスサマー・イベント「環境科学はかせにチャレンジ！～エコクイズ・スタンプラリー～」(7/4 NHK・FM、7/9 TVKテレビ「かながわウォーク」、7/25読売新聞、8/14 TVKテレビ「TRY!神奈川」)</li> <li>・ 環境科学センター業績発表会(9.29 ミニコミ紙、10/12 TVKテレビ)</li> <li>・ 環境実践者支援講座(10/6 ミニコミ紙「タウンニュース」)</li> <li>・ 金目川の水温上昇（金目川水系流域ネットワークとの共同調査結果） (10/16 神奈川新聞)</li> <li>・ 珍虫「ヤマトセンブリ」の生息を確認（10/20 神奈川・読売・毎日等の新聞）</li> </ul> <p>その他、研究内容について情報登録し、H18/2/9 日経産業新聞に2課題について紹介記事が掲載された。</p>
2 施設公開・イベント	<p>当センターの周知を図るとともに、県民の環境問題への関心を広げ、科学技術に関する理解を深めるため施設公開等を実施した。</p> <p>主な内容は次のとおり。</p> <p>科学技術週間 施設公開：H17/4/18～22の5日間 参加者31人 かながわサイエンスサマー・イベント 「環境科学はかせにチャレンジ！～エコクイズ・スタンプラリー～」 内容：燃料電池自動車の体験乗車と模型のデモ走行 プラスチックの識別実験、無響室での音体験、環境マップづくり、パソコンで見る大気汚染、きき水など 開催日：H17/7/23(土)の1日間 参加者196人</p>

### 3.1.6 審議会、委員会等への派遣

当センターでは市町村の審議会や、国又は市町村等が行政方針の決定や、課題の解決のために設置した委員会等に多くの職員が委員として参画し、様々な分野について、知識や技術的な面での助言等を行っている。

なお、平成17年度に参画した審議会、委員会等については5.3のとおり。

### 3.1.7 調査研究業務

研究プロジェクト担当は、特定研究「事業所周辺における大気環境リスクの推計に関する研究」を開始し、研究業務を推進した。また共同研究1課題を実施した。研究内容については、4.2.1のとおり。

### 3.2 環境保全部

環境保全部には、化学物質担当、大気環境担当、河川湖沼担当の3つの担当を置き、大気、水域のダイオキシン類や環境ホルモンなどの化学物質調査、有害大気汚染物質や浮遊粒子状物質などの大気環境調査並びに水域の生物調査や水質事故時調査をそれぞれ行っている。

平成17年度の主な行政関連業務は、環境ホルモン等環境調査、ダイオキシン類分析調査、有害大気汚染物質モニタリング調査及び丹沢オゾン分布調査を行った。また、8月に神奈川アスベスト対策会議が発足したのに伴い、解体工事等におけるアスベスト調査(環境技術部と共同)及び建材中アスベスト含有調査などの緊急調査を実施した。

調査研究業務は、「水質事故時における農薬の迅速スクリーニング法の開発」、「神奈川県の大気環境におけるアルデヒド類の濃度分布と発生源寄与の推定」、「水田とその周辺水域における水生動物の分布と利用形態」などの経常研究に取り組むと共に、特定研究「事業所周辺における大気環境リスクの推計に関する研究」に部横断的に取り組んだ。

#### 3.2.1 行政関連業務

行政関連業務等については、次のとおり実施した。

(化学物質担当関係)

調査項目	調査数	検体数	項目数	概要
1 環境ホルモン等大気環境調査	6 (地点 ×回)	6	48	環境ホルモン作用が疑われている8物質について3地点で年2回調査を実施した。
2 環境ホルモン等水域環境調査	19 (地点 ×回)	19	626	環境ホルモン作用が疑われている44物質と -エストラジオールについて5河川で水質(年2回)と底質を、2海域で水質を、また生物は2河川でコイを対象として調査を行った。
3 ダイオキシン類分析調査	15件	106	106	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく立入り調査として7事業所29検体を、緊急調査として寒川町クリーンセンター周辺調査等67検体の分析を行った。また、共同研究の「水田土壌中のダイオキシン類残留料及び流出量の推計」として39検体の分析を行った。
4 ダイオキシン類分析統一精度管理調査(環境省)	1回	1	39	共通試料(排ガス)1検体のダイオキシン類及びコプラナーPCBの39異性体について精度管理試験を行った。
5 化学物質環境汚染実態調査(環境省)				
(1)初期環境調査(大気)	1地点 ×3日	3	3	3日間連続で大気試料を採取し、N-(1,3-ジメチルブチル)-N'-フェニル-1,4-フェニレンジアミン(6PPD)の測定を行った。
(2)詳細環境調査(大気)	1地点 ×3回	3	3	3日間連続で大気試料を採取し、N,N-ジメチルホルムアミドの測定を行った。
(3)化学物質分析法開発調査	2件	14	28	14種類の農薬について大気及び水中濃度測定法を開発した。
(4)モニタリング調査	1地点 ×6回	6	-	残留性有機汚染物質(POPs)等の分析のために大気試料を採取した。

6 化学物質環境モニタリング(PRTR)調査(大気)	4地点 ×4回	14	70	「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(以下「PRTR法」という)による届出排出量の多い化学物質の環境中濃度の実態把握を行うため大気調査を実施した。
7 平成17年度環境省農薬残留対策総合調査 - 水質農薬残留に係る調査 - (日本植物防疫協会)				
水田農薬河川モニタリング調査(水質)	5地点 ×21日	105	5	水産動植物への農薬の影響評価に資するため、金目川水系渋田川で水田農薬の河川における流出実態及び最大濃度を水田耕作期間中に調査した。
計	-	277	931	

(大気環境担当関係)

調査項目	調査数	検体数	項目数	概要
1 有害大気汚染物質モニタリング調査	48 (地点 ×回)	140	740	有害大気汚染物質(19物質)による汚染状況を把握するため、揮発性有機化合物9物質は毎月、アルデヒド類2物質、重金属類6物質、多環芳香族類1物質及び酸化エチレンは季節毎に年4回、4地点での大気中の濃度の測定調査を行った。
2 フロン環境実態調査	20 (地点 ×回)	20	240	フロン回収処理の推進に資するため、県内5地点において、特定フロン及び代替フロン計12物質の大気環境中濃度の実態調査を季節毎に年4回行った。
3 酸性雨共同調査				
(1)共同調査	7地点	108	1,080	各市と共同して東アジア方式による酸性雨共同調査を実施した。7地点で1週間ごとに降水を採取し、降水量、pH、EC、イオン成分濃度を測定した。
(2)広域共同調査	1地点	70	700	酸性雨による広域汚染の実態を把握するため、梅雨期に1都11県1市で、降水量、pH、EC、イオン成分濃度の共同調査を実施した。
4 PM2.5対策共同調査 (広域調査) (共同調査)	13地点 8地点	20 40	520 320	1都9県4市及び県公害防止推進協議会浮遊粒子状物質対策検討部会により、道路沿道および一般環境において微小粒子(PM2.5)の実態調査を実施した。
5 丹沢オゾン分布調査	100地点	500	500	丹沢の主稜線部におけるブナの衰退の原因解明のため、丹沢山塊及び周辺地域の100地点において5月から9月まで1か月毎に拡散サンプラーを用いて、オゾン濃度を測定した。
6 アスベスト解体立ち会い調査	104件	-	-	アスベスト解体に伴う環境測定等の立ち会い調査を実施した。

7 アスベスト含有調査	51件	107	214	県立高校等県施設の建材中のアスベスト含有の有無と種類を判定した。
計	-	1,005	4,314	

(河川湖沼担当関係)

調査項目	調査数	検体数	項目数	概要
1 事故等に係る水質等の調査	5件	9	90	魚死亡や白濁水等の水質事故の原因究明のための調査分析を行った。
2 分析機関の精度管理に関する調査	1件	6 事業所	12	水質調査を委託している分析機関に対する精度管理を実施した。
3 土木事務所依頼調査	1件	3	12	崩落場所の土質検査を行った。
計	7	18	114	

### 3.2.2 調査研究業務

特定研究については所内プロジェクトとして、また、重点経常研究1課題、一般経常研究5課題、行政依頼研究1課題、重点基礎研究1課題、共同研究3課題を実施した。その内容については、4 試験研究・調査の概要において、課題については4.1に、概要等については4.2及び研究報告に記載した。

### 3.3 環境技術部

環境技術部には、廃棄物の処理・処分施設関連を担当する廃棄物担当、水質汚染対策及び排水規制施設関連を担当する水処理技術担当並びに騒音及び振動関連を担当する交通環境担当のを置き、廃棄物の適正処理及び廃棄物処理施設の安全対策の充実強化の推進、河川、地下水、土壌等の汚染防止のための事業所排水等の監視及び指導、騒音及び振動の低減化等の行政関連業務及び調査研究業務をそれぞれ行っている。

平成17年度の主な行政関連業務は、産業廃棄物及び一般廃棄物関連の焼却灰、埋立地浸出水、放流水等の検査、事業所排水、地下水等の水質検査、航空機の騒音、新幹線の騒音及び振動等に関連した調査等を行った。

調査研究業務は、アスベスト含有建材の破砕時におけるアスベストの飛散防止のための「アスベスト含有建材の解体等に伴うアスベストの飛散並びにその防止技術の検討」、最終処分場の廃止に伴う降雨等の気象条件を含めた安定度判定構築のための「最終処分場の廃止に向けた安定度判定に関する研究」、水道水源である相模湖・津久井湖の水質浄化技術を開発するための「相模湖/津久井湖における硝酸性窒素除去の可能性」、PRTR法等に係る金属類の分析法を確立するための「汚染土壌中の特定有害物質等の計測技術の研究」、道路に面する地域の環境騒音を面的に評価するための「道路に面する地域の環境騒音の推計方法に関する研究」などを行った。

#### 3.3.1 行政関連業務

行政関連業務等については、次のとおり実施した。

(廃棄物担当関係)

調査項目	調査数	検体数	項目数	概要
1 産業廃棄物等の行政検査	42施設	125	3,474	処理施設における中間処理物、埋立地浸出水と発生ガス及び不法投棄物等の検査を行った。
2 一般廃棄物等の行政検査	43施設	93	3,116	処理施設における焼却灰、埋立地浸出水、放流水等の検査を行った。
計	-	218	6,590	

(水処理技術担当関係)

調査項目	調査数	検体数	項目数	概要
1 法律、条例に基づく工場等立入調査(水質)	99工場	102	624	水質汚濁防止法及び県生活環境の保全等に関する条例に基づく法・条例対象工場の特定施設等の使用状況、排水基準適合状況等を確認するための立入調査を行った。
2 栄養塩類削減対策実施事業に伴う窒素・燐の排出実態調査	30工場	32	64	東京湾及び相模湾富栄養化対策指導指針に基づく窒素・燐排出実態調査を行った。
3 苦情・通報等に係る水質調査	7か所	50	292	地域県政総合センターが実施した苦情調査等に伴う工場排水、地下水、河川等の水質調査及び土壌の溶出及び含有量調査を行った。
合計	-	184	980	



(交通環境担当関係)

調査項目	調査数	概要
1 騒音振動に係る法律、条例及び苦情等に基づく調査指導	9地点	地域県政総合センター及び大気水質課からの依頼に基づき、騒音振動に係る9件の立入調査を行った。問題を解決するため、調査データの提供と技術的支援を行った。
2 航空機騒音測定調査 (大気水質課委託)	36地点	厚木海軍飛行場に飛来する航空機の騒音に係る環境基準達成状況を把握するため、基地周辺の36地点で騒音調査を行った。
3 東海道新幹線鉄道騒音・振動対策調査 (大気水質課、環境省委託)	17地点	東海道新幹線沿線地域の17地点において、騒音・振動調査を実施し、対策事例を検討した。
計	62	

### 3.3.2 調査研究業務

重点経常研究2課題、経常研究7課題、共同研究1課題、公募研究1課題及び政策課題研究1課題を実施した。その内容については、4試験研究・調査の概要において、課題については4.1に、概要等については4.2及び研究報告に記載した。

### 3.4 情報交流部

情報交流部では、環境監視、環境情報及び環境学習の担当を置き業務を行っている。

環境監視担当は、3.4.1に示すとおり県内97か所に設置されている大気環境測定局(一般環境大気測定局62(内政令市46)、自動車排出ガス測定局31(内政令市22)、移動測定局1、立体気象観測局2、高層大気測定局1)を専用回線で結び、大気汚染状況を常時監視するとともに、光化学スモッグ注意報の発令などの緊急時措置を行っている。また、17年度の調査研究業務では、国立環境研究所との共同研究として「日本における光化学オキシダント等の挙動解明に関する研究」を行った。

環境情報担当は、3.4.2に示すとおり化学物質に関する情報の収集とインターネット等による事業所、県民等への情報の提供、県環境農政部の環境情報処理システムや所内の研究業務支援システムの運用管理等を行っている。また、17年度の調査研究業務では、「環境総合統計データベースの構築と効果的な提供手法の確立」を行った。

環境学習担当は、3.4.3に示すとおり地域における環境保全活動を率先して行う環境実践者を養成する「環境実践者養成講座」をはじめ、環境保全や環境学習活動を実践している人を支援する「環境実践者支援講座」や「子ども環境体験教室」等を開催した。また、簡易な化学実験等を行う実習室は、環境保全活動の科学的支援の場として利用されている。その他、環境学習用機材及びビデオの貸出等の事業を行っている。

#### 3.4.1 環境監視業務

環境監視業務については、次のとおり実施した。

事業名	概要
1 大気常時監視測定局の維持運営	<p>常時監視測定局の測定機器の保守管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般環境大気測定局16か所、自動車排出ガス測定局9か所、移動測定局1か所、立体気象観測局2か所、高層大気測定局1か所計29か所の測定機器の保守管理を実施した。</li> </ul> <p>測定機器の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>硫酸化物自動測定機2台、窒素酸化物測定機1台、一酸化炭素自動測定機2台、オキシダント自動測定機4台、浮遊粒子状物質自動測定機2台、炭化水素自動測定機3台、硫酸化物/窒素酸化物一体型自動測定機1台、窒素酸化物/オキシダント一体型自動測定機4台、硫酸化物/浮遊粒子状物質一体型自動測定機2台、気象計2か所の機器類を更新した。</li> </ul>
2 環境監視システムの運営事業	<p>常時監視用コンピュータシステムの維持運営</p> <p>大気汚染緊急時の措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットホームページや携帯電話サイトで光化学スモッグの予報・注意報の発令状況の情報提供を行った。</li> <li>17年度中の光化学スモッグの注意報の発令は、7回(7月1回、8月3回、9月3回)、被害の届出者は276人であった。</li> </ul> <p>大気汚染常時監視測定結果の解析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「平成16年度神奈川の大気汚染」を発行した。</li> </ul>

#### 3.4.2 環境情報業務

環境情報業務については、次のとおり実施した。

事業名	概要
1 環境情報処理システム維持運営事業	<p>環境情報処理システム(県庁・県政総合センター間で稼働している工場・事業場情報管理システム、水質管理システム、産業廃棄物情報管理システム、自動車リサイクル情報管理システム及び環境科学センターで稼働している常時監視支援システムの5つのサブシステムで構成)の運用管理を行った。</p>

2 化学物質安全情報提供システム整備事業	<p>化学物質による環境汚染を未然防止するため、化学物質使用事業所の自主管理体制を支援する目的で構築した「化学物質安全情報提供システム」(KIS-NET)について、維持管理を行った。</p> <p>平成17年度のインターネットアクセスは、1,993,104件であった。</p>
3 情報提供業務	<p>インターネットによる情報提供</p> <p>県環境農政部の各室課のホームページの入口となっている「かながわの環境」を管理・更新した。</p> <p><a href="http://eco.pref.kanagawa.jp/">URL</a> http://eco.pref.kanagawa.jp/ 平成17年度のアクセスは、10,405,513件であった。</p> <p>PRTRデータ(平成15年度調査結果)を更新した。</p> <p>「かながわPRTR情報室」</p> <p><a href="http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/prtr/">URL</a> http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/prtr/ 平成17年度のアクセスは、62,277件であった。</p> <p>大気汚染常時監視データをダウンロードできるページを充実した。</p> <p>「大気汚染常時監視測定結果月報」</p> <p><a href="http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/taiki/data/">URL</a> http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/taiki/data/</p>
4 研究業務支援システム維持運営事業	<p>研究業務支援システムの維持管理を行った。</p>

### 3.4.3 環境学習業務

#### (1) 子ども対象事業

##### ア. 子ども環境体験教室

子どもが自ら環境に係わる様々な体験をすることによって、環境問題の重要性に気づかせることを目的として開催した。また、環境学習リーダーを講師に活用することで、子どもたちにより親しみを持ってもらうとともに、リーダー自身の技術向上も図ることを目指した。7日日程で、延べ160名が参加。

日 程	概 要
H17/ 7/21	ツバメ、朝顔で環境チェック (参加者:21人)
7/28	写真立てを作ろう (参加者:25人)
7/31, 8/28	ソーラークッカーを作ろう (参加者: 22人、 28人)
8/6, 8/20	節電コンセントを作ろう (参加者: 18人、 26人)
8/23	ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう (参加者:20人)

##### イ. 環境自由研究支援教室

環境問題に関する自由研究に取り組む子どもを対象に、テーマごとの実験法の相談や実習の指導を行った。

日 程	概 要
H17/7/20(水)~7/26(火)	3件3名の相談に応じた。主な内容は、大気汚染(酸性雨)、地球環境問題(温暖化、気候変動)であった。

## (2) 環境実践者の養成

### ア．環境実践者養成講座

地域における環境保全活動を率先して行う環境実践者を養成するために、環境問題全般にわたる基礎知識の習得を目的として「環境実践者養成講座」を次のとおり開催した。

日 程	内 容	講 師
H17/10/ 1(土)	神奈川の環境（講義） ネイチャーゲーム（野外実習）	環境科学センター 武 繁春 日本ネイチャーゲーム協会 村田範子
10/ 8(土)	グリーンコンシューマー（講義） 環境教育論（講義）	グリーンコンシューマー研究会 緑川芳樹 (財)地球環境戦略研究機関 高橋正弘
10/15(土)	大気汚染と常時監視（講義と見学） 廃棄物問題（講義）	環境科学センター 堀江裕一 環境科学センター 斎藤邦彦
10/22(土)	化学物質問題（講義） 環境学習活動と地域環境活動の実践から見えてくるもの	環境科学センター 杉山英俊 磯子区環境を考える会 神奈川県環境学習リーダー会 清水幸夫
10/29(土)	三浦半島における環境保全活動 ワークショップの進め方（講義） 今後の活動プログラム作り（実習）	横須賀ホテルの会 亀井 公 神奈川県環境学習リーダー会 近藤作司 同上
(受講者38人) (修了者32人)		

### イ．環境実践者支援講座

地域で環境保全活動や環境学習活動を実践している人を支援するため、専門分野別に次の5コースを開催した。

#### < 環境調査コース >

日 程	内 容	講 師
H17/ 6/ 4(土)	環境調査コース開講にあたって（講義） 身近な環境調査事例紹介（講義）	環境科学センター 野崎隆夫 よみがえれ板戸川市民の会 山口夏子
6/ 5(日)	河川調査方法（野外実習） 水質分析（実習）	環境科学センター 野崎隆夫 同上
6/11(土)	水生生物同定（実習） 大気モニタリング（講義と実習）	同上 神奈川県環境学習リーダー会 佐伯秀夫
(受講者16人)	環境モニタリング結果の加工・評価法（講義と実習）	環境科学センター 岡 敬一

#### < 環境教育支援コース >

日 程	内 容	講 師
H17/ 7/29(金)	これからの環境教育（講義） ネイチャーゲーム（野外実習）	東京農工大学 朝岡幸彦 日本ネイチャーゲーム協会 村田範子
8/ 1(月)	事例発表	川崎高等学校 羽角 章 神奈川県環境学習リーダー会 近藤作司
8/ 2(火)	水質調査（野外実習） 大気汚染の調査法（実習）	環境科学センター 野崎隆夫 神奈川県環境学習リーダー会 佐伯秀夫
(受講者26人)	ワークショップ（実習）	かながわ環境教育研究会 渡辺 敦

<循環型社会コース>

日 程	内 容	講 師
H17/11/19(土)	廃棄物と3Rの現状と、循環型社会に向けた市民の役割(講義)	(株)ダイナックス都市環境研究所 山本耕平
	プラスチックの分別とリサイクル(講義と実習)	環境科学センター 坂本広美
11/25(金)	かながわクリーンセンター(見学と学習)	施設職員
	産業廃棄物最終処分場(見学)	施設職員
12/ 3(土)	ごみ問題に関する実践事例紹介	生ごみを出さない会 芹沢孝之
		大磯町暮らしを考える連絡会 小野一恵
(受講者28人)	ワークショップ(ごみ減量化や3R等の取り組みや活動について)	パナソニックコミュニケーションズ(株) 原園信夫

<化学物質コース>

日 程	内 容	講 師
H18/ 1/21(土)	暮らしと化学物質(講義)	(株)環境情報コミュニケーションズ 大歳幸男
	化学物質リスクと環境影響(講義と実習)	環境科学センター 大塚知泰
1/28(土)	P R T R制度(講義)	環境科学センター 池貝隆宏
	P R T Rデータの内容と活用(講義)	環境科学センター 大塚定男
	データ解析(実習)	同上
2/ 4(土)	化学物質リスクコミュニケーション(講義)	化学物質アドバイザー 辻野泰子
(受講者27人)	ワークショップ(化学物質の削減対策について)	バルディーズ研究会 角田季美枝

<音の環境教育>

日 程	内 容	講 師
H18/ 2/25(土) (受講者16人)	音環境の把握と改善(講義と実習) 音環境の定性的評価から定量的評価(講義と野外実習)	千葉県環境研究センター 石井 皓

(3) 市民環境活動報告会

県内各地で自主的に環境保全活動を行っているグループによる活動状況や研究成果等の発表の場として、また、参加者どうしの意見交換を通じて環境保全・改善の輪を広げていくことを目的として、「市民環境活動報告会(神奈川県環境学習リーダー会と共催)」を次のとおり開催した。

(開催日:平成18年2月18日、場所:かながわ県民センターホール、参加者数:125人)

発 表 内 容	発 表 者
発表1 なつかしい風景を再現 - 平塚にホテル舞い戻る -	金目川親水公園ホテル保存会 米村康信 ほか
発表2 「エコタウンかながわ2005」 - 神奈川県9ブロック区分による実情と課題 -	神奈川県環境学習リーダー会 狩野光子 ほか
発表3 “化学物質と環境”への取組	かながわ環境カウンセラー協議会 中山育美
発表4 地域にねづいた環境活動をめざして - ヨコハマG30への協力と大岡川源流域に親しむ活動 -	磯子区環境を考える会 秋保友子・真木利枝
発表5 みんなで明るく楽しく!!アイドリングストップ活動	神奈川県地球温暖化防止活動推進員 古代信行

<p>基調講演 アルプスは少女ハイジの楽園だったのか  - スイスと比べながらわが国の山村問題を考える -  ポスター発表 9 題</p>	<p>(社)林道安全協会・林政総合調査研究所  山縣光晶  かながわ環境カウンセラー協議会  二宮町 葛川をきれいにする会  アース・エコ  神奈川県環境学習リーダー会 大気環境部会  エネルギー部会  水環境部会  廃棄物GO3部会  ケナフ部会  グリーン部会</p>
---	--

#### (4) その他学習事業

事業名	概要
1 活動支援スペース・環境情報スペースの利用	<p>環境保全活動の打合せなどいつでも県民が自由に利用できる会議室としてのスペース、インターネット検索性パソコン、自由に視聴できるビデオコーナー、環境関連図書を配架する図書コーナーを整備し、年末年始を除き年間を通して開放している。平成17年度の入館者数は 2,940人であった。</p>
2 環境学習室の利用	<p>団体の来所者には環境学習室において講義等の学習支援を行っている。  ・平成17年度の利用者は、次のとおりであった。  環境学習室の利用団体数 16団体及びセンター主催講座利用日数 16日  同 利用者数 847人 (うちセンター主催講座の受講者 364人)</p>
3 実習室の利用	<p>環境保全活動の科学的支援の場として、簡易な実験が行える実習室が整備され一般者が利用できる。利用内容は、河川水のpH、CODや大気中二酸化窒素濃度の分析をはじめ、ケナフの紙漉や省エネクッキング講座等幅広い。  ・平成17年度の利用者は、次のとおりであった。  実習室の利用団体数 71団体 及びセンター主催講座利用日数 14日  同 利用者数 1306人 (うちセンター主催講座の受講者 369人)</p>
4 環境学習情報の提供	<p>環境学習のためのホームページ「地球環境学習ひろば」では、環境学習に関する情報を発信している。  URL <a href="http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/learning/toppage.htm">http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/learning/toppage.htm</a></p>
5 環境学習用機器類の貸し出し	<p>環境保全活動の普及を目的として環境学習用のビデオ、測定機器、観察機器等の貸し出しを県民に行っている。</p>
6 環境関連イベントへの協力	<p>環境問題への意識を啓発するため、関係機関の要請に応じて、環境関連イベントへの参加・協力を行っている。</p>

#### 3.4.4 調査研究業務

特定研究については所内プロジェクトとして、また、経常研究及び共同研究についてはそれぞれ1課題を実施した。その内容については、4 試験研究・調査の概要において、課題については4.1に、概要等については4.2及び研究報告に記載した。